

北海之光

8月号 北海道教区報

安らかに信頼している

ことにこそ力がある

イザヤ書 30章 15節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

休ませてあげよう

札幌聖ミカエル教会牧師
新札幌聖ニコラス教会管理牧師

司祭 コルベ 下 澤 昌

「疲れた者、重荷を負う者は、
だれでもわたしのもとに来な
さい。休ませてあげよう」

(マタイ一・一二八)

長いキリスト教の歴史の中
で、数え切れないほど多くの
人々が、この言葉に慰められ、
助けられて信仰の生涯を送っ
たことでしょう。コロナウイ
ルス禍で信仰を保つことに、
信徒も教役者も疲れているの
で、いま、この言葉には特別
な響きがあります。

イエス様は、私たちに苦勞
や、悩みのない人生を与える
というような安易な約束はし
ません。逆に私たち人間が、
つまらない問題に翻弄された
り、些細なことで悩み苦しん
でいる現実を、一緒に引き受
けて下さるのです。そして、
私たちが重荷を負わされ、疲
れた者として生きざるを得な

い現実を、共に生きて下さる
のです。

ところで、「休ませてあげ
よう」と言われるイエス様で
すが、そういうご本人が一番
休んでいないように見受けら
れます。いつも苦しむ人々の
ために骨身を削り、最後は命
までも削ってしまいました。
では、イエス様がおっしゃ
る「休み」とは何でしょう
か。属性という言葉がありま
すが、私たちはどこかに所属
して生きています。そこには
役割があり、例えば仕事上の
役割、家庭の中で自然に発生
する役割もあるでしょう。し
かし、私たちの生きる場では、
本当は自分の役割に納得でき
ていないのに、ただそれを演
じてしまうのが、私たちの悲
しいところです。心は別の所
にあるにもかかわらずです。

自他共に、自分はこうあらね
ばならないという衣服を無理
やりに自分に着せようとして
いるようです。そのことがい
つの間にか自分を追い詰めて
います。イエス様が、「あな
たがたを休ませてあげよう」
と言われたのは、仕事をしな
い日をあげようというのでは
なく、「ねばならない」とい
う自分から解放される時をあ
げようと言われたのです。

イエス様は休まないと言
いましたが、福音書には周りに
いる人々からそっと離れて、
一人で祈る姿が記されていま
す。どんなに気ぜわしく、大
勢の人が周りにいても、ある
時はその場で、あるいはそこ
を離れて一人で祈られます。
イエス様の祈りこそは、まさ
しくイエス様の休息なので
す。

本来の休みというのは、
いつとき、与えられた役割か
ら自由になることです。こう
あらねばならないという自分
を計る物差しを捨て、神様の
物差しを自分の中に置いてみ
るということ。そして祈りと

は、自分の物差しを棚上げし、
手放して自由になるという作
業でもあります。裸になって
神様の前にたたずむ自分を、
祈りの中でイメージすること
から、私たちに必要な休息が
始まるのです。

私も、今ほど自分に祈りが
必要と思ったことはありません。
昔を知っている人は「おやお
や」と思うでしょう。あまり
祈りに熱心ではなかったの
です。祈りでさえ、私には「役割」
だったのかもしれない。し
かし、いまはただ祈ります。

私たちが重荷から解かれて
休むためには、まずは祈る。
それでも休めなければ、もっ
と祈る。イエス様はご自分の
生涯をかけて、そのように私
たちに教えておられます。ま
ずは私たちの生活の中に祈り
を回復したい。とにかく祈っ
てみる。それは私たちに必要
な真の休息のためにです。ま
ずはそこから再スタートを切
りたいと思っています。



—心の窓をひらき—



福音と私(二四〇)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか



札幌キリスト教会信徒

ニコデモ 宮本 淳

五月に洗礼・堅信を受けた生まれだての信徒である私に原稿の依頼があったのは、これまで未信徒として長く教会と関わりを持ってきたからだと考えています。ここでは、私の歩みを素直にお伝えできればと思います。

同じ研究室に所属した後には妻となるみっちゃん(道子)はクリスチャンだったので。当時青年会の活動をしてきた彼女の用事で札幌キリスト教会に研究室の仲間と立ち寄ったのが教会との最初の関わりです。下澤先生ご夫妻と知り合い、信徒でもない我々に気さくに話しかけてくださり、教会という場のハードルが下がっていきました。さらに、彼女のお父さんは牧師だったのです。当時の実家である苦小牧聖ルカ教会へも遊

びに伺い、ますますハードル

は下がっていきました。しかし、礼拝への出席は躊躇していません。学会で北見を訪れた時には、北見聖ヤコブ教会に泊めていただき、大町先生ご一家にお世話になりました。教会はどこへ伺っても皆さん気さくに接してくれました。一方で、オープンな雰囲気戸惑いがあったというのも正直なところでした。

時は流れ、みっちゃんは茨城で就職、私は大学を修了し、北見で暮らしました。北見への転居と大町先生の東京赴任は同時で、その後北見に赴任された上平仁志先生にお世話になりました。ひとりで教会へ行くのはとてもハードルが高かったのですが、上平先生からは行事がある度にお誘いのお手紙をいただき、やがて

しばしば教会へ行くようになりました。洗礼を受けていないのにいいのだろうかと思いつつ、クリスマスに聖書を読んだ時の緊張は今でも忘れません。そして、時々聞かせていただいた青年時代の上平更先生のギターのアレンジが心地良かったのを覚えています。

この頃、みっちゃんの通っていた土浦の聖バルナバ教会をしばしば訪れました。ここでは北海道との不思議な縁がたくさんありました。そして、私は北見、彼女は茨城で暮らしつつ札幌キリスト教会で結婚式を挙げました。彼女と知り合ってから約七年後のことです。私は何をすることも時間がかかりました。その後私は札幌へ転居しましたが、妻(結婚したので「妻」と呼びます)とは二年以上別居婚でした。その間、妻は千葉の私の実家へ、私は当時の妻の実家旭川聖マルコ教会へ訪れる日々がしばらく続きました。

さらに時は流れ、札幌で妻と暮らし始め、三人の子どもに恵まれました。いつしか、教会へ通うことは生活の一部になり、礼拝への参加と前に

出て祝福を受けることもいつの間にかできるようになっていました。私は、教会での交流を楽しみ、特に子どもたちの成長の場として教会はなくてはならない所なのだろうと考えていました。ご迷惑をかけてもいますが、子どもたちがこれほどまでに多くの世代の方と触れ合い、多くの体験をすることはなかなかできることではありません。未信徒として唯一心のどこかで引がかかっていたのは、私自身の洗礼です。教会では多くの皆さんとの交流を通じて、必然的に皆さんの人生に触れることになりました。当然、楽しい、うれしいことばかりではなく、悲しいこと、長い時間悩まされることがあります。そのような経験の中で自分の信仰心はどうなんだと自問自答している。「洗礼はまだだな」との結論に達するのです。何ももって自分が納得するのかわからず、でも教会での生活を続けることでいつか納得できる日が来るのかもしれないとも思う、と同時に未信徒であることで自分勝手な疎外感を感じることがある。そし

て、少し他人にも頼ってみようと思うのですが、洗礼に関する誘いはほほえないのです。一方で、強く誘われたら拒否するという自分もありありと想像できるのです。もうどうしようもありません。そんな時にきつかけとなったのが、子どもたちの堅信です。幼児洗礼を受け、教会ですくすくと育った子どもたちは当たり前のように堅信を受けることになりました。もう少し考えてもいいんだよと言いましたが、自分の口から受けるというのです。決断の早さをうらやましく感じました。私は、この後自分がどのような時に主体的に洗礼を考えるかを想像してみました。結果は、自分の人生の最期に緊急洗礼を受けるといふものでした。それでもいいと思っていたのですが、その話をすべて大町先生にしてみたらという妻の言葉に、相当悩んだ末にお話し、洗礼に至らなくてもいいとのことでした。私の考えていることへの大町先生のご回答は、正直に言えば予想してい

(三頁下段に続く)

感謝 北海の光献金(敬称略)

常置委員会報告 第一〇回 七月一三日

《協議事項》

一、八月以降のコロナ対応(礼拝・集会)に関する件
・八月も引き続き七月同様の対応を継続する事とした。

二、阿部恵子執事の司祭按手式に関する件
・八月二二日(土)一〇時より、札幌キリスト教会に於いて行われる司祭按手式について、感染予防のため出席者数に制限を設けることとした。また式の様子はネット配

信することとした。
三、日本聖公会総会に関する件
・教区制改革に関する議案が上程される予定であるが、総会代議員と常置委員との合同協議会を開催することとした。

四、三浦千晴聖職候補生の夏期実習に関する件
・実習先を、植松主教、大町常置委員長に一任した。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

九月九日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司 祭 木 末 登

一九六七年九月四日

司 祭 本 間 弥 門

一九三九年九月八日

司 祭 岡 村 龍 夫

一九八〇年九月一〇日

司 祭 須 貝 隆

一九九九年九月一三日

伝道師 門 崎 まさゑ

一九七九年九月一五日

伝道師 A・M・ヒュース

一九五八年九月一七日

伝道師 E・E・ヒュース

一九三〇年九月一八日

司 祭 柴 田 新太郎

一九三四年九月二〇日



主教室より

本来なら今月の「主教室より」は英国でのランベス会議からの投稿になるはずでしたが、ランベス会議はコロナのために来年夏に延期されました。ランベス会議とは、一〇年に一度、世界中の現役主教とその伴侶がカンタベリー大主教の招待でカンタベリーに集まる大会議です。スタッフなども入れると総勢で二千人もの参加者になります。私はこれまでに二回参加しました。

来年の夏に延期ということでしたが、それでも本当に開けるだろうかと心配していました。世界中でコロナ感染は拡大しています。それに対処するためのワク

チンはまだできていません。世界中の主教が参加するランベス会議ならば、コロナ感染はならないことはあつてはなりません。また、今のような状況では、世界の各地から主教たちが旅行できるはずありません。それらが来年夏にはすべて解決しているとはどうしても考えられないと思つていた時に、カンタベリー大主教のジャスティン・ウエルビー師から私とテレビ電話でランベス会議開催の件で話したいとの意向が伝えられました。事前に日本の主教たちの意見も聞き、当日の電話では、私は上記の理由で来年の開催は無理だと思つたと申しました。もしも二〇二二年夏に延期するのなら、それまでの期間、できれば、あなたとあなたのチームがいろんな管区を訪問して、その主教たちと一緒に協議し、祈り、交わりを深めてみては?と提案しました。ウエルビー大主教は、それは良い考えだと。

その二週間後に、ランベス会議を二〇二二年夏に再延期するという正式な通知がきました。二〇二二年の三月末で私は退職となりますので、次のランベス会議には行けません。ランベス会議のためのご献金は七月末で一応終わりましたが、次の主教が参加できるように、教区で大事にお預かりしておきます。皆様の尊いご献金とお祈り、誠にありがとうございます。ごさいました。

主教 ナタナエル 植松 誠

(二頁下段より続く)

たことに近いものでした。それで安心したというのが私にとっては重要ですが、大町先生と対話したという事実をもって、ずっと洗礼を受けたかった自分を納得させたというのが真実なのではないかと少しの恥ずかしさをこめて第三者目線で考えています。ここまで約二五年です。今では、現在の私の実家がある高知でも教会の縁が広がっています。この原稿を書いていて、あらためて自分の人生が教会とともにあること、多くの皆さんに支えられてきたことが確認できました。洗礼・堅信式直後の清々しい気持ちは一生忘れないでしょう。涙が出たとおっしゃられた多くの皆さんの気持ちも今になって少し理解できるよう気がしています。小学四年生の長男が私に言います、「教会では僕の方が先輩だからね」と。教会での私は生まれたばかりの赤ん坊かもしれませぬ。のんびりとした歩みですが、立派な大人になれるよう皆さん今後ともご指導をよろしくお願ひ致します。



▽留萌キリスト教会

低温少雨の天候が高温少雨になった七月。通常ならば、ザーを開催する時期ですが、感染症予防のため残念ながら礼拝以外は全てが休止状態。一方観光は賑わいを見せています。留萌の道の駅が新開店、海開きもあり大賑わい。二週間後に大騒ぎが起きませんようにと願っています。

来年の宣教二〇二〇年に向けて製作を依頼していたチャリスベールとバースのセットが完成して、大阪から送られてきました。ステイ・ホームで製作が順調に進んだとのことでした。記録に残しましょう。

▽旭川聖マルコ教会

コロナ対策の礼拝が続いて

います。今年のマルコバザーは中止になりましたが、礼拝後、すでに集まっていたバザー用品のミニバザーを開催しています。お客は、出席者

二七日、教会墓地にて、函館聖ヨハネ教会在籍の故吉本正さんの納骨式が行われました。生前、製作して下さった木製の十字架ポールはマルコ教会の大切なシンボルです。

二九日、保育園すみれ組の一四名は、旭岳、姿見の池へと出発しました。ロープウェイ駅に到着すると一面霧に覆われ、姿見の駅到着後も素晴らしい眺望は霧の中でした。ちよっぴり残念でしたが、全員元気に下山しました。

▽岩見沢聖十字架教会

幼稚園は七月三一日をもって一学期が終了。コロナに翻弄された園児と教員。二学期、元気に登園しますように。

一五日、紋別の内竹康雄兄が来岩。札幌での重機講習会の途中に寄って下さる。教会と園を見学。交わり感謝。

一九日、池田享司祭司式による二月以来の聖餐式。皆様

方との楽しき交わり。

本来は二〇二〇東京五輪が開催。札幌ではマラソン、競歩、サッカーが実施予定。我が愛する日本がコロナを克服して来年こそは、五輪が開催される事をお祈りします。

▽釧路聖パウロ教会

夏が深まるにつれ教会に少しづつ人が戻ってきました。

七月十九日には一五人の信徒が集まり聖餐式が行われました。ただコロナ禍の影響はまだまだ残り、加えて今年の日東は例年に比べ日照時間が異常に少なく、以前のような情況に戻るにはもう少し時間がかかりそうです。

四日に開かれた教会委員会で今後の陪餐方法や墓地礼拝、厚岸聖オーガスチン教会礼拝、主教巡回のスケジュールなどについて話し合われ、松井司祭に一任ということに。

後日、八月三〇日に主教に巡回していただくことになりました。楽しみです。

また、聖書協会共同訳の聖書(中型版)を三〇冊購入し教会に配置します。

頌栄保育園は空気清浄機の導入など様々な感染対策を講じつつ皆で頑張っています。

リハビリで回復に向かっている津田正子さんの頑張りに主の恵みがありますように。

▽小樽聖公会

七月五日(日)、この日の聖餐式は植松主教が司式・説教をしてくださり、主教様と聖餐式をお捧げる恵みに与りました。主日に自宅でお祈りされていた方々の中からも礼拝に出席して下さる方がいらつしやう、久しぶりの再会と、ともに礼拝できる喜びを分かち合い、感謝いたしました。

七月から礼拝式文は短縮版から通常に戻り、聖歌は三曲の奏楽で歌わずに聴いていますが、長時間にならないように工夫されています。また、礼拝堂換気のため網戸設置の必要があり現在検討中です。

▽新冠聖フランシス教会

内海司祭の入院・内視鏡手

術は一週間で無事退院となりました。みなさまのご加禱を感謝します。そのため七月の聖餐式は一九日(聖霊降臨後第七主日)のみとなりましたが、多くの方々がご出席くださいました。新冠の信徒のみなさんはもとより、札幌から札幌聖ミカエル教会の横山光紀・弥生さんご夫妻と、聖マーガレット教会の石塚尚子さんが来訪くださり、ともに霊の糧に与ることが出来ました。殊に新冠で少年時代を過ごされた横山光紀さんは、感慨一入でありましたでしょう。

七月より、主日礼拝の持ち方について少し緩和されたことから徐々に出席者数が増えてきました。「主の平和」と平和の挨拶をする時にも、久々の再会を喜ぶ笑顔が浮かびます。七月一二日、「七、八月合同教会委員会」開催、例年秋以降に計画されていた行事のうち、九月の「ご長寿をお祝いする会」、一月の「十勝の豆」販売作業、今年中は止まりました。一二日午後、

▽帯広聖公会

七月より、主日礼拝の持ち方について少し緩和されたことから徐々に出席者数が増えてきました。「主の平和」と平和の挨拶をする時にも、久々の再会を喜ぶ笑顔が浮かびます。七月一二日、「七、八月合同教会委員会」開催、例年秋以降に計画されていた行事のうち、九月の「ご長寿をお祝いする会」、一月の「十勝の豆」販売作業、今年中は止まりました。一二日午後、

音更の及川家の逝去者記念墓
地礼拝が行われ、不二天さん、
和子さんご夫妻の魂の平安を
お祈りしました。阿部恵子先
生の司祭按手式、八月二日
に札幌で行われる旨公示、大
きな喜び！主に感謝。

▽札幌キリスト教会

本来であれば、オリンピック
クのマラソンランナーが、教
会前を走っていたはずの夏で
す。六月三〇日、小林芳子さ
ん。七月二日、浅野満津子さ
ん。二六日、小島賢治さんご
逝去。御三人のみ国での平安
をお祈りします。GFSの活
動は、屋外プログラムで再開。
木曜日の「よりみちカフェ」
は、「よりみちマルシェ」と

銘打ち雑貨や衣類、テイクア
ウトのケーキ、クッキーなど
の販売で再開。礼拝参加者も
増え、人数分散のため主日の
早朝と夕方、水曜夜の聖餐式
への出席を奨励して密集を避
けています。礼拝堂に聖歌が
大きく響く日を待ち望みま
す。

▽札幌聖ミカエル教会

毎週月曜の夜に行ってい

た「祈りの夕べ」を再開しま
した。また主日の二回の聖餐
式もかなり出席者が戻り、聖
餐式を別室に中継していま
す。そのうち、教会外からも
インターネットで中継を見ら
れるように考えています。毎
年参加している札幌市のカル
チャーナイトが、今年はウェ
ブ上で動画を公開する形にな
り、教会の歴史を辿る写真を
載せて作成しました。日曜学
校は八月二日まで。再会の日
を楽しみにしています。

一四日、ペテロ 白澤道夫
さんご逝去、五三歳という
若さでした。魂の上に主によ
る永遠の安息をお祈りいたし
ます。

▽新札幌聖ニコラス教会

七月に入り花壇の彩りもあ
ざやかに。各家庭からの献花
として捧げられる花が増えて
賑わいを増してきました。手
作り品に安井家の採れたて野
菜も加わって、礼拝後はみん
なでホールの机に並べた品物
を見ながら小さな市場巡り。
ニコラスの礼拝堂は夏に強
い。暑さから逃れるために一

度ご訪問ください。
▽稚内聖公会

七月の礼拝は九日。窓を開
けて空気を入れ替え、礼拝の
準備をしていると変な物音。
何だろう？と見回すと、何
と猫がこちらを見ている。か
つての牧師館のお風呂場に住
みつこうとしていたらしい
(あるいは、もう住み着いて
いたのかもしれない)。子猫
でも生まれたらひと騒動なの
で、礼拝後、隙間に板を打ち
付けるなどの応急措置。あの
猫、恨んでるだろうなあ。普
段はだれも住んでいない牧師
館にもチャンと「アベノマス
ク」が届いていました。
〈七月の岬に愛の鐘が鳴る
わぶん〉

▽苫小牧聖ルカ教会

コロナばかりではないと思
いますが、少ない人数での礼
拝が続いています。
毎週短縮版聖餐式文を配布
していただき、家庭でも使用
しています。
恒例のハスカップを有志で
ハスカップ農園に取りに行き
ました。

マーメイドジャムも有志
で作りました。不定期に発行
されている「はこぶね」、信
徒からの近況報告を掲載、次
回が楽しみです。

幼稚園は二九日から一週間
短い夏休みに入りました。
運動会は九月に延期です。
船員奉仕会は船員が上陸禁
止の船もあり、暫く活動中止
していますが、船から要請が
あれば対応しています。船員
の安否を問う方法を模索して
います。
主に感謝。

▽函館聖ヨハネ教会

七月より土日祝日限定で聖
堂内入場制限の上オープン
チャーチ再開。マスク着用、
手指消毒、額で検温を必須と
する。海の日には二百名を超
す来会者有。一日、庭側の
ドア開放し庭に向けてジャズ
の練習公開。中止となった九
月の聖堂コンサート出演者に
よる奉仕。道行く人、近隣の
人、庭の花々とともに音楽を
楽しむ。一二日主教ご巡錫。
愛餐会はなかったが、久々の
主教ご夫妻との交わりに感

謝。二三日、入院中であつた
谷地畝正子姉ご逝去。二五日
葬送告別式。突然の知らせに
寂しさが募る。函館ヨハネオ
リジナルの子どものための聖
餐式ガイドブック使用開始
す。

▽平取聖公会

新型コロナウイルスの感染
が終息せず、大都市では第二
波の感染が広まり第一波より
多くなっています。礼拝時の
感染防止がさらに続きます。
記者の長男の中学一年の孫
娘が先月堅信式を受けまし
た。日本基督教団の教会で幼
児洗礼を受けていましたが、
同じ教会で今回の堅信に結び
つきました。感謝です。

バチラー保育園の認定子ど
も園への建て替えが計画され
ています。老朽化と町内に幼
稚園がないことへの要望に応
えたものです。大正時代にバ
チラーが平取で幼稚園を始め
五年ほど続いた歴史がありま
すが、一〇〇年ぶりの開園が
待たれます。お祈り下さい。

▽有珠聖公会

教会の建つ丘は、様々な色

合いのアジサイの紫で包まれて
います。土曜日に開館する
バチラー夫妻記念室にも訪れ
る人が増えて来ました。

七月二十五日、主日聖餐式。

新たに求道の若いご夫妻が与
えられ、礼拝の後、信徒の皆
さんにもオープンな形で、洗
礼準備が始まりました。共に
学ぶ機会として実り多いもの
となりますように。

農家の信徒家庭は、農作業
の最も忙しい時期になりました。
天候の安定と、作業の安
全を祈ります。

▽深川聖三教会

天の父なる神様のお守りに
より只今のところ教会員、保
育園職員、園児、保護者は健
康です。感謝。七月五日委員
会、墓地礼拝五方所の予定を
決める。主教教令による八月
以降の礼拝のあり方を相談
す。一八〜一九日保育園を会
場としてお泊り会、園児七名、
小学生一三名参加。焼肉料理、
温泉へ、カラオケ大会、おた
のしみ大会、翌日は聖なる朝
の礼拝。園舎の中にテントを
張りキャンブを味わう。

一日ポニフエス寺岡義人
さんの埋骨式、九名出席す。
故人の魂の平安をお祈りす。

▽網走聖ペテロ教会

平和な毎日を祈りつつ教会
もやっと平常礼拝が守られる
ようになってきました。

婦人会もスタート。今年は
大きな活動は出来ませんが神
様の御心を信じ歩みたいで
す。

一九日、待ちに待った主教
様巡回、奥様も来られ数ヶ月
ぶりに喜びを分かち合いまし
た。

二六日、本当ならギデオ
ン

協会の方が来会し証の時を持
つ予定のところ、コロナの関
係でキャンセルとなりました
が、遠方より司祭夫妻の友人
が来られ、共に礼拝を捧げる
事が出来ました。それぞれの
生活に主が共におられます。
感謝。

▽北見聖ヤコブ教会

使徒聖ヤコブ日は七月二五
日なのですが、司祭の来る直
近の主日ということで一九日
に「使徒聖ヤコブ記念礼拝」
を行うことになっていました

が、植松主教様をご巡回くだ
さることとなりました。主教
司式・説教という豪華なヤコ
ブ日礼拝となり、お交わりに
おいても語らいと笑いのとき
れることのないお恵みをいた
だきました。

司祭は草刈りをしたり、Y
MCAのお礼拝や運営委員会
でご奉仕をしたり、北見牧師
会に出席したりしています。

労働者同盟会合北見です。

▽紋別聖マリヤ教会

まだまだ夏らしいとは言え
ない紋別です。例年であれ
ば、避暑に来られる方などの
お客様の訪問がある教会です
が、このコロナ禍にあつては、
それもままならないような寂
しい季節となりました。二六
日、植松主教による主日礼拝。

三ヶ月ぶりの聖餐式で、信徒
も一〇名が参列しました。幼
稚園では、運動会もお泊り会
も中止となり、いつもとは違
う一学期でしたが、子どもた
ちはみんな元気に過ごすこと
ができて感謝でした。様々な制
約の中で子どもたちの成長の
ために奮闘する職員にも感謝

です。

▽今金インマヌエル教会

「年年歳歳花相似たり、歳
歳年年人同じからず」とは云
え、繁忙、コロナ禍の農村教
会、その歩み毅然として変え
ることがありません。日々健
康が守られ、営農の歩みをお
支え下さっていることに感謝
しております。司祭は五日

一九日の両主日午後六時半よ
りご奉仕の後帰函、二二時安
着の由。二四日一一時より、
天沼修嗣兄の納骨埋葬、遠く
また近くより一族が集い、寧
兄のリードの下温かな思い出
に包まれ祈り、交わりを深め
ました。入院中のマリヤ平野
キミ姉、アンナ天沼信子姉の
ため乞ご加禱を。

▽室蘭聖マタイ教会

梅雨のない筈のこの地方で
すが、連日の曇天と小雨で教
会のまわりの雑草も伸び放題
で、山本兄が草刈り機で処分
してくれました。それでも九
州の方の災害を考えると恵ま
れた地区に住んでいると感謝
です。

一方新型コロナウイルスの影響でど

なたも多少不便を感じている
と思いますが、病院に入院中
の身でも病室での面会は許さ
れないのです。テレビで五分
間位対面するだけです。教友
も病室はわかつているのに会
えませんが、お墓参りの季節に
なりましたが、最近教会の永
代管理料が完納できました。
一安心です。

▽聖マーガレット教会

七月五日(日) 聖霊降臨後
第五主日聖餐式。新型コロナ
対応期間としてはじめて、出
席者が二〇人を越える。座席
を指定し、社会的距離を取っ
ての礼拝。

二二日(日) 海の主日。吉
野司祭から聞いていた「コロ
ナ禍、上陸の不許可で、船内
に留まらざるを得ない外国船
の労働者」を憶えて祈る。

二二日(水) 婦人会お仕事
会。七月から南米由来の「ミ
サンガ」に挑戦。組み紐のよ
うな織物。参加者、難行苦行
す。参考にした教本のテキス
トはデンマーク語。手芸の世
界は国際的。

